

# 科学物質過敏症（健康住宅）

## ■化学物質過敏症とは

化学物質過敏症とは、**化学物質が人体を刺激して様々な症状（過敏症）を起す事**です。化学物質による人体への影響には急性／慢性中毒やアレルギー、発癌性、催奇形性、また最近では環境ホルモン作用が知られています。化学物質過敏症はそれらとは一応異なった作用経路が考えられていますが、まだ確定されてはいません。

これは省エネルギー対策で高気密化した建築物が造られるようになって発生しました。新築家屋やリフォーム等で、建材や接着剤等から揮発するホルムアルデヒドやキシレン、トルエン等の揮発性有機化合物（VOC）等が主な原因であることは明白になってきています。

## ■施工管理と完成後の対策

### 施工現場で注意したいポイント

早く住みたいからと工事をむやみに急がせることは、健康な住まいを造る大きな妨げになります。天然素材の施工材料は化学処理されたものに比べて乾燥に時間がかかるため敬遠されやすくなります。

また、完全に乾ききる前に次の施工段階に進むと大量の化学物質を家の中に閉じ込めることになり、長い期間にわたって化学物質を放散し続けることになってしまいます。

**施工の期間は余裕を持って、使用する建材の養生や施工材料の乾燥時間を十分に確保することが大切です。**

さらに、竣工（しゅんこう）後もすぐに入居せず、換気のための期間を設けると残留する化学物質をずいぶん減らすことができます。

この時、残留物質をより放散させる為に、ベークアウト（暖房で温度を上げ、化学物質を強制的に放散・排出させること）も効果的です。

### ベークアウト

ベークアウトというのは、**暖房で室温を上げて有害な化学物質をどんどん放出させ、それを強制的に換気することで室内の化学物質濃度を下げる方法**です。

新築住宅に入居するときや、リフォームしたときに実施すると効果的で、10～14日くらい掛かります。

### ベークアウトの方法

- ①全ての室内を閉め切って、暖房機を全開にして、室温を40度位にします。この時、家具や作り付け収納の扉、流し台下、点検口など開けられるところは全て開けます。
- ②温度が、40度位に上がるまで、室内は閉め切っておきます。  
2～3日掛かるかもしれません。
- ③そして、温度が上がったら、高い位置の窓を1箇所少しだけ開けます。  
その状態で1週間位暖め続けます。
- ④最後に窓を全開にして、2～4日位換気をします。